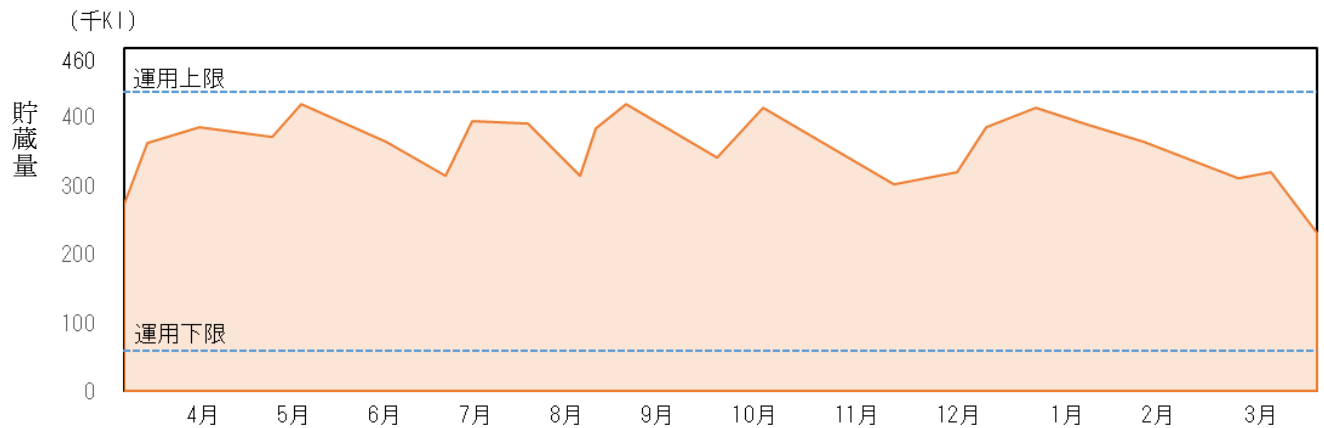


〔大分基地〕 液化ガス貯蔵設備の容量等の公表義務

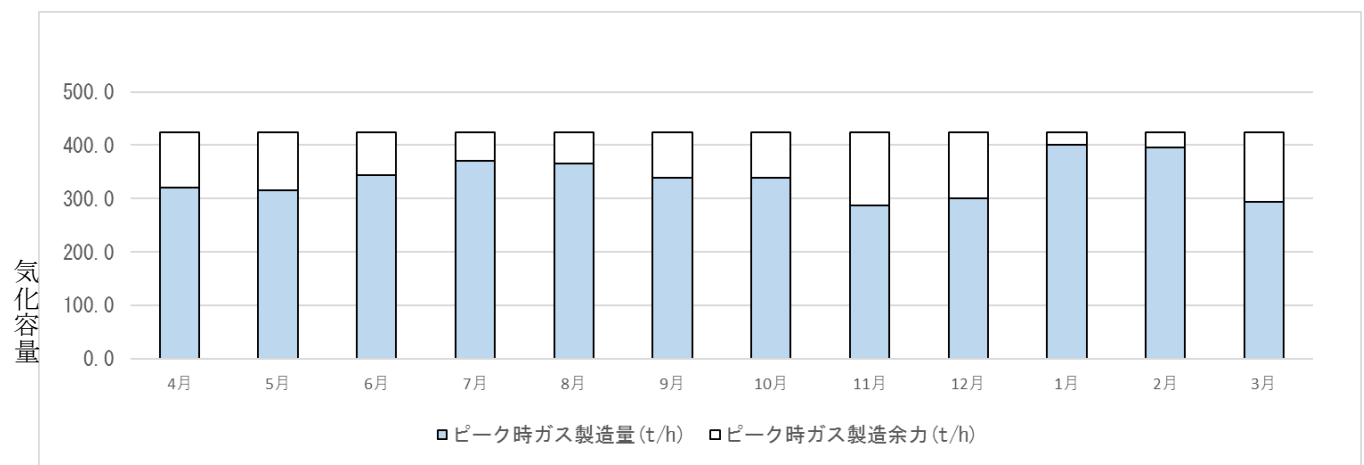
- ・ 以下は、ガス事業法第 90 条第 1 項及びガス事業法施行規則第 142 条に基づき公表するものです。

1 液化ガス貯蔵設備における液化ガスの貯蔵イメージ



- ・ 上図は、大分基地の年間 LNG 貯蔵量をイメージで表したものです。
 なお、LNG 貯蔵量については、LNG の受入状況、電気事業者等の需要動向、定期的または予定外の設備工事等により変動します。
- ・ 2026 年 3 月末時点では、一般的な LNG 船 1 隻（約 130 千 kl）を受け入れられるだけのルームレント余力はございません。
 また、ルームシェア方式は条件次第でご利用可能*となりますが、実際の貯蔵能力は需給動向や受入状況によって変動しますので、詳細に関しましては別途お問合せください。
 ※配船調整及び LNG 在庫の貸借を前提に、年度終了時に在庫が 0 となるよう、年間を通して一定の割合で払出を行う場合で、一般的な LNG 船 1 隻程度（約 130 千 kl）ご利用可能であることが見込まれます。

2 ガス発生設備におけるガス製造イメージ



- ・ 上図は、大分基地のガス製造余力イメージを表したものです。
 なお、既存一般ガス導管事業者の需要動向、定期的または予定外の設備工事等により変動します。
 詳細につきましては別途お問合せください。

3 基地利用希望者が利用できる船舶種類及び船型並びに液化ガスの種類及び品質

(1) 船舶種類及び船型

①最大要目

船型	タンク積載量 (トン)	総トン数 (トン)	載貨重量 (トン)	全長 (m)	型幅 (m)	型深 (m)	満載喫水 (m)
メンブレン型	21.7 万 m ³ 級	137,535	121,964	315.16	50.0	27.0	12.72
モス型	17.7 万 m ³ 級	143,000	90,000	300.0	52.0	28.0	11.90
モス型 (連続タンカカバー)	18.0 万 m ³ 級	155,000	80,300	297.50	48.94	27.0	11.50

②最小要目

船型	タンク積載量 (トン)	総トン数 (トン)	載貨重量 (トン)	全長 (m)	型幅 (m)	型深 (m)	満載喫水 (m)
モス型	12.5 万 m ³ 級	107,146	67,024	272.0	47.2	26.5	10.95

(2) 液化ガス種類及び品質

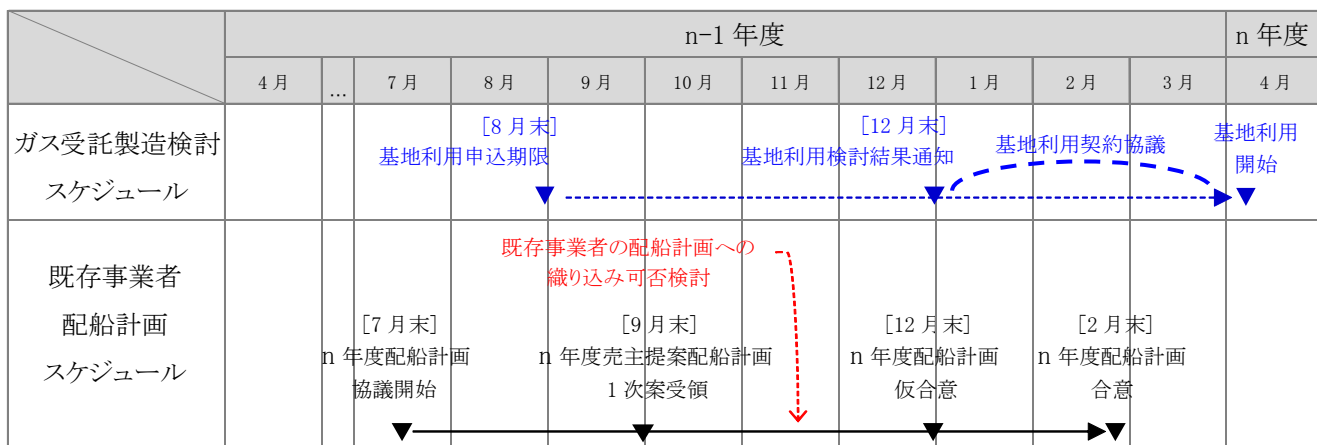
①液化ガス種類・・・液化天然ガス（LNG）

②品質の目安

組成	メタン 83.00 モル%以上 ブタン以上※ 2.00 モル%以下 ペンタン以上※ 0.10 モル%以下 窒素 1.00 モル%以下 ※ブタン以上とはブタン以上の重質炭化水素（ペンタン以上を含む）、 ペンタン以上とは、ペンタン以上の重質炭化水素を指します。
発熱量	41.00～45.00MJ/m ³ N
その他	硫化水素 標準立方メートルあたり 4.8mg 以下 全硫黄 標準立方メートルあたり 28mg 以下 固形又はその他の不純物及び異物を含まないこと

受入れることができる LNG の品質は、個別の利用条件によって異なるため、上記数値は目安とします。

4 配船計画の策定時期の見通し



なお、上記内容を事前の予告なく変更することがあり、この場合、大分基地の液化ガス貯蔵設備の容量等については、変更後の内容によります。